

早生で安定多収・高品質な陸稲新品種「関東糯197号」

農業総合センター・生物工学研究所・農業研究所

陸稲新品種「関東糯 197 号」は「秣戸」より熟期が早く、強稈・安定多収で、耐干性・耐冷性が強く栽培特性が優れます。また、千粒重が重く外観品質・餅品質も優れるため、「秣戸」に替えて奨励品種に採用し、本県産陸稲の評価向上と生産安定を図っていきます。

- 1)「関東糯 197 号」の出穂期は「秣戸」より 3～4 日早く、成熟期は 3～5 日早い「早生」です。
- 2)短強稈で、安定多収です。
- 3)やや穂重型の生育で、生育量はやや少なめです。



写真1 「関東糯 197 号」の立毛状況(登熟初期)と株標本

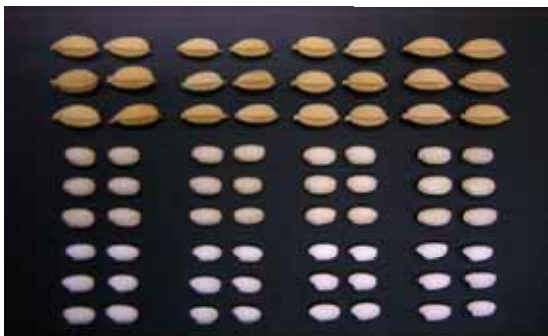


写真2 「関東糯 197 号」の穀粒

- 1)「関東糯 197 号」の千粒重は 21.5g で、「秣戸」の 19.3g よりかなり大粒です。また、玄米品質は「秣戸」と同等以上です。
- 2)ふ先色は「秣戸」と同じ「褐」であり、「トヨハタチ」(紫)、「ゆめのはたもち」(黄白)と識別性があります。
- 3)餅食味は滑らかさ、歯ごたえ、粘りが優れるため、総合評価では「トヨハタチ」、「秣戸」より優れます。
- 4)あられ、おかきとしての加工適性は「トヨハタチ」、「秣戸」と同等です。

- 1)「関東糯 197 号」は干ばつに強く、圃場が乾燥した状態では「トヨハタチ」、「秣戸」に強い葉まき症状が見られますが、「関東糯 197 号」には強い耐干性が認められます。
- 2)「関東糯197号」は耐冷性も「やや強」に改良されています。



写真3 関東糯197号の耐干性(平成16年8月3日)

栽培上の留意点

- 1)早生・短強稈で耐肥性があるため、露地野菜の輪作作物としての活用が可能です。
- 2)穂発芽性は「難」ですが、刈り遅れに注意し適期収穫に努めましょう。
- 3)耐干性は「強」ですが、過度の干ばつ時には適宜かん水を行ってください。

< 問い合わせ先 ; 農業研究所作物研究室 電話 029 (239) 7212 >